

必聴!!

# 骨粗鬆症患者スクリーニングにおける 歯科が果たす役割

基礎編

## 歯科医院は骨折リスク患者を見つける重要な拠点となりえる

日本の骨粗鬆症患者数は1300万人と推定されているが、約300万人しか治療を受けていない。年々増加している**骨粗鬆症性骨折患者の5年生存率は約50%**であり、多くの悪性腫瘍患者のそれよりも悪い。我々は1990年代初頭からパノラマX線写真による骨粗鬆症患者スクリーニングに関するエビデンスを蓄積し、本年、診療ガイドラインを策定した。歯科医院は骨折リスク患者を見つける重要な拠点となりえる。



教授 田口 明

日本歯科放射線学会常任理事・専門医・指導医、日本骨粗鬆症学会評議員、日本骨代謝学会評議員、日本歯周病学会評議員、日本画像医学会評議員、外国医師修練指導歯科医、歯科研修指導医、死亡時画像診断研修修了医、PGC of Clinical Dental Research Methods (Univ. of Washington)、PGC of Evidence-Based Diagnostics (Oxford Univ.)、Honorary Professor of the University of Hong Kong

<日時> 2021年10月19日(火) 20:00~22:00

応用編

## 歯科医院での骨粗鬆症スクリーニングの 医療コミュニティにおける価値と課題

歯科医院で撮影しているパノラマX線写真を骨粗鬆症スクリーニングに利用し、**医科歯科連携によって間接的に骨減少症・骨粗鬆症の診断・治療を行うことができたなら歯科医療・歯科医院の価値はより向上する**。今回は、自院でパノラマX線写真を用いた骨粗鬆症スクリーニングを実際に実践してみた感じた価値や医科との連携の難しさ・改善点などについて述べたいと思う。



歯科医師 岸本 隆明

医療法人 岸本歯科 大分ペリオデンタルオフィス 院長 (大分県大分市) 2007年長崎大学歯学部卒業 (DDS 取得)。同大学付属病院研修医室勤務。2012年同大学歯周病科大学院終了 (PhD 取得)。2012-2013年岸本歯科勤務、日本歯周病学会認定医取得。2014-2017年インディアナ大学歯周病科大学院専門医過程 postgraduate program 修了 (MSD 取得)。The Henry M. Swenson Award 受賞、E.Brady Hancock Resident Award 受賞、インディアナ大学歯周病科大学院専門医過程を首席で卒業、2017年より岸本歯科にて歯周病・インプラント外科を専門に勤務。2018年米国歯周病学ボード認定専門医取得 (Diplomate, American Board of Periodontology)。同年長崎大学歯学部臨床准教授、Oita Periodontics Education 主宰。2021年医療法人 岸本歯科大分ペリオデンタルオフィス開院

<日時> 2021年10月23日(土) 20:00~22:00



医科歯科連携の本来の目的である「患者さんの身体の変化、病気に気付いて未然に防ぐこと」このセミナーは正にそこを知ることが出来ます。歯科医院だから出来ること、多くの方に知ってもらいたいです！  
かすみり・おしむら歯科 押村 憲昭

申込



オンライン開催

参加費 無料

